

地域医療を担うドクター vol.10 医療法人社団 健昌会 新里クリニック (新里メディケアグループ)



長崎市で医療・介護・福祉を総合的にサポートしている『新里メディケアグループ』の新里 健 理事長(66歳)にお話を伺った。

尊敬する父の望み 教授の留学推薦を拒む

「『留学を3回も勧めて3回も断ったのは君だけだ。』と恩師の原耕平教授(長崎大学名誉教授)から未だに言われます。」と語り始めた新里理事長。

「私は鹿児島に生まれ、小学校4年生の時に将来は医師になると決めていました。それは、一族の念願であるとともに尊敬する父の望みだったからです。戦時中、父は職業軍人として国のために命がけで戦い、金鶏勲章も授かりました。しかし国が敗れると、そんな父に何も残りませんでした。戦後、父は家族を養うために大変苦労したと思います。当時、父には軍医の友人があり、その友人の医師の資格が、敗戦後の家族の生活を支える上でどれ程役に立つかということ強く認識したと思います。この事が子供を医者にしたいという思いにつながったのでしょう。」

「そういう訳で私にとっての医師は、開業医であり、大学に残って研究者になるとか、勤務医になることではありませんでした。教授の留学の勧めを再三断ったのも私の考えの根底に“開業する”という強い思いがあり、留学してしまうと“回り道”をしてしまうのではないかと不安があったからです。」

初めての挫折 運命のめぐり合わせ

「私の家庭は兄弟6名の子沢山で、私は一番上でした。だから医者になるには、何としても現役で国公立大学の医学部に合格しなければなりません。そのような事から私は長崎大学医学部を受験することになり、何とか現役で合格することができました。ところが、医学部1年生の時に成績不良で落第してしまいました。遊び過ぎが原因でした。私は、落第したという現実を前に家族に申し訳ないという思いや、恥かしいという気持ちで自己嫌悪に陥りました。それでも留年した1年間は、時間にかかなりの余裕ができましたので、孔子や孫子など中国の古典を読み漁りました。今振り返ると、私にとってこの時の経験がその後の人生に大きく影響しているのではないかと思います。」

「私は大学に入った当初、脳外科医になろうと思った時期があ

ります。それは私の中学時代、テレビで“ベン・ケーシー”という米国ドラマが流行りその影響を受けたからです。しかし、卒業が近づくと開業医になることを意識するようになると、専門性の高い脳外科を目指すより診療分野が幅広い内科が向いていると考え、最終的に第二内科を選びました。入局して半年ほど経った頃、佐世保市立総合病院の透析担当の医師が病気で倒れるという緊急事態が起きました。急遽代わりの医師として研修医の私が派遣されることになりました。昭和48年、私は大学の透析室で特訓を受けて、透析・内科兼任研修医として赴任しました。このことから私が透析医療に携わるようになったのはまさに運命的であったと思います。」

「佐世保市立総合病院には2年間勤務して大学に戻りました。その後、大学の医局人事で多くの基幹病院に勤務しました。最期の勤務先は、長崎県江迎町にある北松中央病院(現 地方独立行政法人 北松中央病院)でした。」

開業への認識の甘さ 人との出会いが財産

「私は勤務医時代、開業する知識を得るために他の先生と同じようにセミナーに参加したり、開業に役立つ本も読みました。そして昭和61年、私は北松中央病院から100kmも離れた長崎市で人工透析をメインとした『新里内科』を開業しました。開業後は大学医局のバックアップと透析という専門性がありましたので、患者さんは順調に増えました。しかし、患者さんが増えれば増えるほど大きな悩みが私の頭の中を占めるようになりました。それは診療を行う上で“私の思い通りにスタッフが動いてくれない”ということでした。私は開業に当りスタッフは現地で採用すれば何とかなる



新里メディケアセンター

と安易に考え自分が勤務していた病院からはひとりのスタッフも連れてゆきませんでした。当時、私が勤務してきた病院では、まわりのスタッフは当然のように私をサポートしてくれていたもので、開業するまで“スタッフの重要性・必要性”に気づいていなかったのです。私は『どうすれば今のスタッフが自分の思う通りに動いてくれるのだろうか?』と考えました。そして『私が率先垂範で行動すれば、必ずスタッフはついてくる』という結論に達しました。そう考えた私は、朝5時に起きて自ら透析液のタンクを洗い透析の準備をして、外来や入院、夜間透析も診ました。自宅に帰り着くのは毎日午前0時過ぎ。食事を摂ってすぐに寝るのですが、時には夜中に電話で起こされることもありました。そんな生活を3年くらい続けた頃でしょうか、私は原因不明の発熱に悩まされるようになりました。透析医療を行い入院も診ていたので当然休めません。点滴をしながら診療を続けましたが、一人でやる診療には限界があります。結局私は、外来を診て頂くように大学の医局にお願いしました。この時は、医局の先生方に感謝しきれないくらい助けて貰いました。そういった時を経て何とか日々の診療を行ってききましたが、相変わらずスタッフは私が望むようには動いてくれませんでした。」

「開業して5年後、私にとって大きな出会いがありました。それ



透析センターの様子

せん。」(中村輝勝氏は、平成13年病気のため永眠。新里グループの組織作りに多大な功績を残された)

「私が行った率先垂範という行動は、リーダーとして必要な資質ではありますが、組織を運営するための必要十分な条件ではないと思います。リーダーにとって大切なことは、その時々スタッフのレベルに合ったリーダーシップを発揮できるかどうか、だと考えています。」

走りながら考える 高齢者支援システムの構築

「開業して日々の診療を行うごとに、透析患者さんの寿命は今後も必ず延びていくと実感しました。なぜなら透析技術が著しく進歩していたからです。しかし、患者さんの寿命は延びたとしても将来的に身体の衰えは必ず来る。そうなると通院に支障をきたす患者さんが増えてくるのではないかと。その時、今の診療体制で対応できるのだろうかと考えようになりました。そこで、その時代に対応するには介護を取り込んだ高齢者医療、つまり医療と介護、さらには福祉がより密接に結びついた新しい形の高齢者支援システムの構築が不可欠だと思いました。そして昭和62年『医療法人社団 健昌会』として法人化、平成8年に『社会福祉法人 長昌会』を設立し、平成10年12月『新里ネフロクリニック』『城山台ソラール』を開設しました。」

その後新里理事長は、現状に満足することなく“更なる完成度”を追求される。療養型病床設置に始まりデイサービス・グループホームの開設、平成17年にはISO9001の認証取得そして平成22年には、患者さんのQOL向上を目的に生活の中に医療・介護が一体化された『新里メディケアセンター』を開設された。

新里理事長にチャレンジすることについて尋ねると「チャレンジには、当然リスクが伴います。『新里は走りながら考える』とよく言われますが、そのおりの性格でここまで走り続けてきたのかもしれない。その代償としての苦労はありましたが、ここまで来られたのは、何よりも人に恵まれ、また運が良かったからだと思います。」

私は人生においては自分の限界を決めることなく夢を描き、その実現に向けて歩み続けること、それと同時に人との出会いを大切にすることがとても重要だと思います。」

基本理念 H・H・A・S (ハース) スタッフ育成とワークライフバランス

「私は、開業以来“豊かな人間性(Humanity)”に基づいた“もてなしの心(Hospitality)”で接することを常とし、社会貢献への誇りを旨として“飽くなき能力研鑽を目指す(Ability)”という理念を掲げています。更に平成11年には“常に真摯な態度で職務に従事する(Sincerity)”という考えを付加し、新理念

として組織を運営してきました。現在、当グループのスタッフのレベルが徐々に上がり、より多くの患者さんや地域の皆様に貢献できるようになってきたことを何よりも嬉しく思っています。これからもスタッフ一人ひとりが仕事を通じて生きがい・やりがいを感じ同時に家庭や地域社会において責任を果たし、それぞれの人生の中で多様な生き方を選択・実現できるグループにしていきたいと思っています。」

新里理事長は、開業当時から他の医療施設では殆ど行われていなかった人事考課を逸早く取り入れ、その後、部門考課・部門管理を行ってきたという。現在では全体教育委員会が設置され、新人・中堅・管理職といった各階層に応じた教育プログラムが実施されている。また、全職員が個人カードを持ちポイント制を設けて公平・公正な評価制度に取り組んでいる。

個から連携へ 人生の目的

「今後急速に進む高齢化社会を支えていくには戦後形成された“利己主義的”価値観から脱皮し、昔から日本人が持ち合わせている“連携・協力”という考えに基づいた行動が求められると思います。それは、血縁関係だけではなく、地域の人と人のコミュニケーションをより進めた、地域全体で支えあう社会形成が不可欠だと思うからです。私は、自分の組織においてもそういった考えを育み、スタッフ皆が充実した人生を歩み幸福になれるようにこれからも努力していきたいと考えています。」



リハビリセンターの様子

最後に新里理事長は「私の人生の最終目的は、『如何に生きそしていかに満足するか』だと考えています。」と語った。

**施設名: 医療法人社団 健昌会 新里クリニック
(新里メディケアグループ)**

場所: 長崎市茂里町 3-20 (新里メディケアセンター)
URL: [http:// www.shinzato.or.jp/index.html](http://www.shinzato.or.jp/index.html)

取材・編集担当
アイティーアイ株式会社 営業本部 満尾・小川
福岡市博多区博多駅南 3-7-37
Tel: 092-472-1881

支店
福岡・北九州・久留米・長崎・佐世保・大村・大分・熊本・八代・鹿児島・宮崎・沖縄

営業所
山口・筑豊・佐賀・五島・天草・川内・延岡・都城・鹿屋

連絡事務所
東京・東関東・千葉・東京西・神奈川

※弊社では、ご開業に必要な各種医療機器・設備機器を取扱っております。お気軽にお問合せ下さい。